

Y14b

JVO ポータル第二版：検索インターフェイスの改善

白崎裕治, 小宮悠, 江口智士, 大石雅寿, 水本好彦, (国立天文台) 石原康秀, 内田賢志, 檜山貴博, 布施純平 (富士通), 寺西広太郎 (富士通デザイン) 小蔵圭輔 (Scriptorium)

Japanese Virtual Observatory (JVO) 開発グループでは様々な天文データへのポータルサイト、JVO ポータルの開発を進めてきた。本サービスは 2008 年より運用を開始し、<http://jvo.nao.ac.jp/portal> から利用できる。国立天文台が取得した主要な観測データである、すばる望遠鏡や ALMA 望遠鏡のデータの配信に加え、世界各国の天文データセンターが国際標準仕様に従って公開している天文データサービス (VO) への一元的なアクセス機能を提供している。

これまで運用を行ってきた JVO ポータルは、機能追加が毎年度逐次的に行われ、基本的機能は充実している。一方、UI の不統一性などにより検索シーケンスが分かりにくいという利用者の声があった。そこで、さらに JVO の利用を促進するために、GUI の利用しやすさという観点から系統的に評価し、改善点を洗い出した。その結果、動線が多く、デザイン・レイアウトの個別施行が目立ち、汎用的な使い易さ・習得しやすさを提供できていない、といった点を改善するべきという結果が得られた。

そこで、昨年度よりこの評価結果にもとづき、1) 新規ユーザが理解しやすいこと、2) マニュアルレスな操作性を提供すること、3) 動線を整理し、レイアウト、パーツの見え、使い勝手を統一すること、4) 情報アシストのタイミングとネーミング、方法を精査すること、といった事項を念頭に GUI の再構成を行ってきた。現在までに、基本的な検索機能についてはこれまでに比べ、より見通しのよい操作性を提供できるようになっている。本講演では新しい GUI の紹介と今後の開発スケジュールについて報告する。